

## 「ふるさと山田町の未来のために」提言

### 1. 地元の産業振興を図り後継者を育てるためには

▶小学校などでも積極的に「漁師の仕事体験」などを行い、子供が漁業に少しでも興味をもってもらえるような機会をつくる▶山田の漁業をアピールするため、魚介類や漁師の皆さんの頑張りをCMにする▶大きい船を改装し、人がたくさん乗れる洋上レストランにする▶今の漁業者は高齢者が多いので、何人かでグループをつくってこれまでの経験を生かし、若い後継者を育てる活動をしてもらう▶新たに漁師になる人には、いくらか補助金を出す▶漁師をやめる人の船を町が1、2隻買い取り、新たに漁師になる人に安い値段でレンタルさせる

### 2. 豊かな自然、環境、文化、伝承をアピールして観光客を誘致するには

▶山田の川（織笠川、関川、豊間根川）の水を利用して大規模な釣り堀を造る。全国の珍しい魚を集めて日本中の釣り人を集める。釣り堀の目玉は日本最大の淡水魚のイトウや雷魚などで、最低30種類以上が釣れるようにする▶山田の特産品のパッケージに山田の予定表や季節の行事、PRを入れて販売する▶こいのぼりみたいに「鯨のぼり」をオリジナルで作って「鯨のぼり祭り」を開催する▶鯨のオリジナルキャラクターを作って売る。例えば、鯨人形焼きなど▶鯨山を整備して観光客に登山させて自然と触れ合ってもらおう。例えば、山菜を採ったりして楽しんでもらう▶全国に山田の祭りをテレビで流した方がいいと思う▶道の駅に「オランダ館」を建てる。山田とオランダの関係を展示したり、オランダの特産品を売ったり、オランダの人に実際に来てもらって講演やパフォーマンスなどをしてもらう▶12月にオランダ島をライトなどで飾り、ナイトクルーズを行う。日帰り「山田八景」ツアーを行う。8月にオランダ島でプレスケンス号の入港シーンを再現する▶山田の中学生が主催する花火大会を開催する。町内の小中学校の生徒から100円ずつ募金してもらい、大会の運営は町内の皆さんにボランティアで参加してもらう

### 3. 自然を守るためには

▶リサイクルマーケットをやった方がよい▶海面活性剤などが入っている洗剤などではなく、地球・海に害が少ないせっけんを使って1~2週、せっけんで物などを洗う行事みたいなものをやればよいと思う▶1年間に植える広葉樹の量を増やす。そのために募金活動で植林の資金をたためる。今、山田の水がどのような状況になっているのかを町民の人々に訴え、小さな下水処理場を建てるために募金をする▶月に1回または2カ月に1回、小中高全員の「学校の周りを緑でいっぱいにしてよう作戦」で広葉樹を植える▶EM菌ゴミ処理法を取り入れ、各家庭に処理機を置いてもらう▶鮭まつりなどのイベントの際に、ゴミの持ち帰りをそのイベントで呼び掛けた方がいいと思う

### 4. 都会から移り住みたいようなまちづくりをするためには

▶「海の幸ツアー」を開催する。魚屋を小型から中型店にしてその場でさばいてもらう。四季折々の食材を食べてもらう（秋は鮭とイクラを食べてもらうなど）▶漁村体験修学旅行で、自然と触れ合ってもらい、自然の楽しさやマナーを教える。内陸ではできないような海での遊びをし、楽しさを教える▶古い空き家を町で買い取り、改装して都会の人に売る▶住みやすい環境をつくるために、ショッピングモールを建築し、便利さを取り入れる。また、山田の環境を守り、体の悪い人たちにも住みやすい町をつくる▶海岸映画祭「山田映画祭」を開く。町民の参加希望者で作品を作り、大賞を決める。海岸に巨大スクリーンと客席を造る▶沖縄県南大東村の町づくりから「島まるごと館」作戦。大島（オランダ島）または小島をまるごと博物館にし、山田町の特色を説明できるようにする▶町内にある宿泊場所で、遠くから来た人にサービスで漁師や経営者が海の遊び、仕事について説明し体験してもらう▶山田町ができてからの出来事（おもしろい、ビックリ）など、これからの未来の山田をまとめた小説を参加希望で作る。資金はボランティアによる募金で集める▶「海の協力隊」をつくり、都会から人を呼んで漁業や農業を体験させる▶森林作業員の海版（海の作業員）を設置。いろいろな都市のハローワークや就職情報紙にこの仕事を紹介する

### 町総合発展計画策定に皆さんの意見・提言を

町では、第八次山田町総合発展計画を策定するに当たり、広く町民の意見や提言を計画に反映させるため、地域懇談会を開催します。どの会場に参加しても構いませんので積極的に参加をお願いします。将来の町づくりについて皆さんの意見、提言をお聞きかせください。

▽期日と会場 下表のとおり  
▽時間 午後六時半~八時半  
▽内容 町を取り巻く状況の説明、自由発言による懇談  
明、自由発言による懇談  
お問い合わせ 役場企画財政課  
企画担当 ☎82-3111  
内線437へどうぞ。

### ◆地域懇談会の日程 [10月]

期日	会場
15日(金)	豊間根生活改善センター
18日(月)	船越防災センター
20日(水)	中央公民館小ホール
21日(木)	船越漁村センター
26日(火)	大浦漁村センター
27日(水)	織笠コミュニティセンター
28日(木)	ふるさとセンター

### 地域懇談会を開催

提言集の提出式は九月二十八日、町長室で行われ、学年委員長の千代川準君と学年副委員長佐藤希美さんが「提言集にはわたしたちの夢がいっぱい込められていて現実的とはいえないものもありますが、一人ひとり真剣に未来のために考えたものです。ぜひ山田の発展のための参考にしてください」と、沼崎喜一町長に提言集を手渡ししました。これに対し沼崎町長は、「皆さんのこれまでの取り組み大変ご苦労さまでした。今年から来年にかけて本町の第八次総合発展計画を作りますので、その中に皆さんの夢ができるだけ

盛り込まれるようにしていきたい」と述べました。町おこしのための調査研究活動は、山中三年生の総合的な学習の時間の取り組みとして今年六月から進められてきました。「町長出前講座」での講話や各種団体を訪問しての聞き取りのほか、インターネットでの資料収集などにより調査研究が行われ、このほど活動の成果が提言集としてまとめられたものです。今回寄せられた提言は、▼地元の産業振興を図り後継者を育てるためには▼豊かな自然、環境、文化、伝承をアピールして観光客を誘致するには▼自然を守るためには▼都会から移り住みたいようなまちづくりをするためには――の四つのテーマで構成。古里を元気にするためのアイデアや夢と希望にあふれたものなどさまざまで、どれも山田を思う気持ちが伝わってくるものばかりです。皆さんもこの機会に身近な地域づくりや町づくりについて考えてみませんか。



今年6月に行われた「町長出前講座」の様子＝写真上＝沼崎喜一町長に提言集を手渡す千代川準君(右)と佐藤希美さん(中)＝丸写真＝



## 山田中学校

# 3年生が町に提言集を提出

## 古里を元気にするために

山田中学校の三年生(百八十五人)が、総合学習の中で取り組んできた町おこしのための調査研究活動が終了し、このほどその活動の成果をまとめた「ふるさと山田町の未来のために」提言集が町に寄せられました。町では現在、平成十八年度から始まる第八次総合発展計画の策定作業を進めており、この提言を含め可能な限り広く町民の皆さんの意見などを計画作りに役立てたいと考えています。ここでは、「子供たちが考える山田の元気な未来像」として、提言集の中から主なものを抜粋して紹介します。

盛り返まれるようにしていきたい」と述べました。町おこしのための調査研究活動は、山中三年生の総合的な学習の時間の取り組みとして今年六月から進められてきました。「町長出前講座」での講話や各種団体を訪問しての聞き取りのほか、インターネットでの資料収集などにより調査研究が行われ、このほど活動の成果が提言集としてまとめられたものです。